

青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



夕日
撮影：青森中央学院大学3年 CHINDAKUL SUKIJ

特集：学生サークルと地域連携


vol.86

特集 学生サークルと地域連携



野球部に聞く

目次
特集：学生サークルと地域連携 2

青森中央学院大学 6

- ・キャリア支援センターより
- ・地域マネジメント研究所
- ・平成24年度前期学位授与式
- ・同窓会総会・懇親会
- ・国際交流センターより
- ・サークル・ライフ
- ・研究室を訪ねて
- ・私の1冊
- ・OB通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学 10

- ・学びの日々
- ・社会とのつながり
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園 浦町保育園 中央文化保育園 14

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本
- ・卒園児頑張っています

青森中央文化専門学校 青森中央経理専門学校 16

- ・Bunka Fashion Live2012
～彩虹 TIC～
- ・「Bunka Fashion Live2012」
裏方レポート
- ・卒業生講話
- ・研修旅行
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

FRIENDLY WINDOW より 18

インフォメーション 19

本学野球部が、新人戦で初めて優勝という快挙を成し遂げました。今日は、中でも大活躍をした榎木優也君（ピッチャー）・三浦広大君（サード）・笹森卓磨君（ショート）に、話を聞いてみました。

—新人戦優勝おめでとうございます。ちょっと時間がたってしまいましたが、感想を聞かせて下さい。

笹森：本学初の優勝に、貢献できてうれしいですね。（榎木君・三浦君、それに合わせて大きく頷く）

—優勝したことで今後、野球部にどのような道が開けてゆくでしょうか。

三浦：神宮が射程に入ってきます。

笹森：おっ、大きく出たな。

榎木：神宮は行けます。来年が勝負の年になります。優勝したことによって、益々力を入れていけば、もっと強くなれるのではないかと思います。とにかくチームが強くなっています。県内だけでなく、県外からうまい選手が集まってきていますからね。相乗効果で、強くなっていることは確かです。いい線いくんじゃないですかね。

三浦：選手の頑張り次第ですけどね。

—ここまで来るの、しんどかった？

榎木：一回一回の試合が、しんどかったですね。とにかく先を見ないで、目先、この試合に勝つことだけ考えてました。

—ここまでこれたのは、どうしてだったと思いますか。

三浦：先ず、自分達に勝ちたいという気持ちがあって、そして3年生のバックアップがあったからこそ、先輩たちの期待に答えようっていう気持ちがあったからじゃないかなあ。

笹森：1,2年生がメインの試合に、3年生が率先して、バッティングやら、ピッチャーやってくれたり、球拾いをやってくれたんですよ。おかげで、すごく効率のよい練習ができたし、より一層、試合に集中することができたんです。

—なるほど。試合中、苦しかった場面はありましたか？

榎木：試合中は、無心です。本当に何も考えませんでした。ただ苦しかった時がありましたね。富士大学との決勝戦で、ピンチに追い込まれて。それより前の試合で、松長、福士両ピッチャーが頑張ってくれたので、疲れてる彼らを休ませたくって頑張ったんです。だけど、8回で、制球が定まらなくなってしまって。終盤ですっかり息切れしてしまったんです。それで、フォアボールで、ランナーをためてしまって、ノーアウト満塁になってしまったんです。精神的に追い込まれていました。その時、ベンチからコーチが出てきてくれて、「これでホームランを打たれたって、まだ2点も余裕があるんだ。だからどんどん打たせてやれ」って言ってくれたんですよ。ああ、もうそれでふっきましたね。おかげで、ピンチを凌ぎました。

—笹森君は怪我をしちゃったとか。

笹森：早々と2試合目で、怪我してしまって。肉離れだったんですよ。だから試合に出れなくなってしまって。しかし、コーチから、どうしてもおまえを使う場面があるからと言われて、とりあえず、選手のサポートに回って、ずっとベンチには座ってスタンバイはしていたんです。いやあ、とにかく怪我した時点で、自分を呪いたかったですよ。辛かったですねえ。怪我してから1週間、間を置いて、決勝戦のチャンスの場面で出場となりました。

三浦：切り札！肝心の時に、打ってくれました！

榎木：あれは凄かったですよ。痛みをこらえながら、2塁まで走ったんですから。

三浦：痛々しかったよなあ。

笹森：いやあ（と、頭をかく）。ところで、広大、お前、苦しかったことなんてあったの？

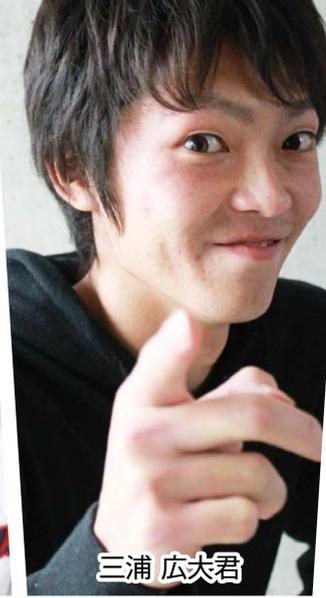
三浦：余裕だね。と言いたいところだけど、さすがに決勝の日は苦しかったですよ。

東日本大震災復興支援 親善試合出場

平成24年度・北東北大学野球連盟一部
春季リーグ戦でベストナインに選ばれ、北
東北代表として東日本大震災復興支援親
善試合に出場する機会を頂き、8月18・19
日宮城県のクリネックススタジアムで復興
支援親善試合を行いました。球場には多く
の東北の方々が観戦に訪れていたので
元気と笑顔を与えられればと考えていま
した。運よく出場機会に恵まれ、東京六大学
に1対0で勝つことができ、東北の力を
みせつけると同時に、東北の方々に笑顔
と元気を与えられたことができたと思います。
(硬式野球部外野手 蟹沢 祐多)



榎木 優也君



三浦 広夫君



笹森 卓磨君

その日はダブルヘッダーで、準決勝が青森大学だったんですが、その試合が苦しかった。1試合目が接戦で、その後、決勝と続いて、優勝候補の富士大学とぶつかりました。雨で、一旦中断になったんですが、グラウンドの状態が最悪の中、試合なんですから。決勝ってということで緊張も極限状態で、とにかく苦しかった。

榎木：三浦は、高校時代、甲子園に行っているんですね。しかも高校時代の東北大会優勝で神宮にも出てるんです。だから少々きついのは、こいつにはこたえないはずなんですけどね。

三浦：笹森だって、東北ベスト4になった弘前学院聖愛高校のキャプテンだったんですよ。

榎木：こいつらすごいんですよ。とにかくうちは、すごい選手が結構いるんです。大活躍の松長はじめ。

笹森：青森大学との試合で、4-1で勝ってただけど、福士君が、それまではよいピッチングをしていたのが、途中で、青森大学の打線につかまってしまって、一点差まで追い詰められてしまったんです。一打同点の場面で、エース松長のご登場ですよ。エース松長がマウンドにあがって、そのピンチを無失点で抑えたんですよ。エースらしい闘士あふれる投球でしたね。

—緊迫のドラマがあったわけね。

三浦：ドラマといえば、榎木も。感動ものですよ。榎木、お前、言えよ。

榎木：個人的なことで申し訳ないんですが、今年の2月に父親を亡くして…。ちょうど優勝した日が父の日だったんですよ。小さい頃、父の影響で野球を始めたので、優勝したことで恩返しできたかなと思っているんです。

(場面は暫くしんみりとする。少し置いて—)

—来年の抱負を聞かせて下さい。

榎木：チームの中で、しっかり自分を持って、リーグ戦で、一試合でも多くチームに貢献したいと思っています。

笹森：今年怪我をしたので、怪我をしないように、体作りをしっかりしようと思います。チームに貢献したいです。そして、先輩達にしてもらったことを、今度は、自分達が後輩達にしていってやりたいと思います。

三浦：春に、リーグ戦10試合あるんですが、毎試合、全力を尽くして、終わってみたら、「勝ってた!」っていう試合が重なって、最終的に北東北リーグで、上位の方に行けていたらいいなあと思っています。

—神宮を目指そう! 志は高く持つべし。君たちに憧れる後輩がいるんだから、ぜひ、彼らを鼓舞して下さい。また、試合に出られなかったけれども、影になり日向になりサポートしてくれたベンチの他の部員へも感謝と同時にエールを送ります。
(インタビュー：加藤澄編集長 写真撮影：須藤 友英)

秋季リーグ戦投手部門 ベストナイン

平成24年度・北東北大学野球連盟一部
秋季リーグ戦において、投手部門ベスト
ナイン賞を受賞することができた。これ
も、支えてくれた野球部員や大学関係者
の励ましで、このような賞を取ることが
でき、感謝の気持ちで一杯です。秋季リ
ーグ戦を振り返ると、苦しい試合の連続で5
勝を積み上げたが負けが2試合あり、悔
しい思いをした。次年度は最上級生とし
て自分自身のレベルアップを図り、大学選
手権・明治神宮大会に出場できるよう頑
張ると共に、チーム全体の団結力を持っ
て戦いますので応援よろしく願います。
(硬式野球部投手 平田 倫致)



野球部ナインの諸君

カーリング部

今回、青森県・東北ミックスダブルスカーリング選手権大会の両大会において優勝することができました。東北ブロックで大学生チームの優勝は初めてであり、2月20日から24日まで長野県軽井沢町で開催される日本選手権への出場が決まりました。

日本選手権は全国の各ブロックで開催された予選を勝ち抜いた強豪チームが集まります。戦略やショットなどの技術はもちろん必要ですが、しっかりとお互いにコミュニケーションを図りながら、1週間の長丁場となる大会で、東北ブロックそして大学の代表として、一戦一戦を大切に、1試合でも多く勝てるようにがんばります。

(カーリング部 古滝 文乃)



ボウリング部

今夏開催された第67回岐阜清流国体ボウリング競技大会で、ダブルス部門で8位に入賞することができました。昨年の山口国体で惨敗した悔しさがあったので、入賞は素直に嬉しいです。

しかし、今大会では私の簡単なミスが多く、足を引っ張ってしまう形となりました。そんな私に何度も声を掛け、励ましてくれたダブルスの相方の小鹿先輩には感謝してもしきれません。そのような状況での入賞だったので、8位という結果ではありますが、入賞することができ本当によかったです。来年は先輩への恩返しとリベンジのために、再び国体へと出場し、国体ボウリング競技における全種目、個人・ダブルス・四人チーム戦において優勝できるように頑張ります。

(ボウリング部主将 工藤 純一郎)

全日本アマチュアボクシング選手権大会出場

ミドル級の佐々木将太郎は、決勝戦で拓殖大の選手と戦い判定勝ちで全国大会に進出した。僕、フライ級の三上大城の一回戦は不戦勝、決勝戦は東洋大の選手に判定勝ちし、本学初の全国大会へ。東北大会では日頃の練習の成果を良い結果に結びつけたと思う。つづく全国大会で、佐々木は大阪朝鮮大学校の選手に残念ながら1回戦で判定負け。僕はシードに入り、2回戦では日連推薦枠全国2位の同志社大の選手に善戦したものの判定負け。初めての全国大会のため、緊張してしまい日頃の練習の成果を出せなかったと反省し、来年は納得できるようにさらに体と心の練習を積み重ねようと思う。

(ボクシング部 三上 大城)



本学テニス部の活躍と今後

平成24年度のテニス部は、主将でエースの川越史君を中心に見事な戦績を取めた。川越君の実力はすでに東北の枠を超え、全国大学生ランキングトップ50にランク・インするほどである(平成24年12月11日現在第37位)。東北学生春季大会では、男子シングルを連覇するとともに、ダブルスでは3年連続、シングルでも2年連続となるインカレ出場を果たした。本学歴代の名プレイヤーと比べても、全くひけをとることのない見事な偉業である。また、彼に関してさらに評価しうる点は、日々の練習の最中に地道な努力を積み重ね、今日の厳しい就職状況の中、公務員としての内定を勝ち取ったことである。本学テニス部は今後、今までも増して、部員の一人一人が正しい人格の陶冶を図る場であり続けなければならない。(顧問 椎名 智彦)

学生団体「選挙へGO!!!」

学生団体「選挙へGO!!!」は若者の政治意識・投票率向上を目的に2011年6月に発足し、現在9大学30名のメンバーで構成されています。これまでに政治家と学生の居酒屋トーク開催や弘前市長への学生目線の政策提言などを行ってきました。今年4月には団体の活動指針となる団体マニフェストを作成し、9つの項目に責任者と数値目標を設定しています。今年の新たな取り組みとして政治家動画サイト「政治家tube」開設があります。この取り組みはインターネットを活用し、紙媒体からは伝わらない政治家の表情や話し方、思いを動画に載せ、若者と政治家を繋げます。

こうした活動が評価を受け、11月、第7回マニフェスト大賞優秀マニフェスト推進賞を受賞することができ、三村青森県知事に報告に行きました。今後とも青森を元気にするために若者の政治意識・投票率向上のために頑張っていきます!!

(代表 竹内 博之)



ポムジュール吹奏楽団

結成1年目の学生団体。主に青森中央学院大学、青森公立大学、青森大学、青森県立保健大学の吹奏楽サークルからなっている。春には約40名で定期演奏会を開き、その他にも各大学の学園祭、高校の文化祭へも参加し演奏した。運営・指導、全て学生が行うので、行事が重なると忙しくなるが、その分やりがいがあり、他大学の交流を通じて受ける刺激がとても新鮮。ちなみにポムジュールとはフランス語で「奏でるリンゴ」という意味。これには「青森といえばリンゴ」のようにいずれは青森県を代表する元気なバンドに育って欲しいという願いが込められている。これからも積極的に活動していきたい。
(アンサンブルサークル長 太田 諭志)



『ドリームサポーター』（家庭裁判所と連携した更生補導）

家庭裁判所と連携して、少年非行の問題を社会全体の問題として受け止め、少年の健全育成と非行少年の更生を手助けする目的で、2011年11月に発足した。青森地方裁判所の協力団体である青森家庭少年友の会が規約を改正して、2011年度から学生会員制度が始まり、本学のDream Supporterの会員も正式に登録している。「青森県立子ども自立センターみらい」や養護学校等で、他大学とも連携しながら、ボランティア活動や更生補導等の支援活動をしている。現在、サークル会員は、15名ほど。Dream Supporterへの御理解と御支援をお願いします。
(顧問 竹中 司郎)

ACGUふっこう会

学生が自らの視点・資源で地域の団体と連携して東日本大震災復興に取り組んでいく会である。自立した組織を目指すため、公開講座や市内の祭りで「ふっこうドリンク」を販売して活動資金を集め、その資金を会の復興支援活動にあてている。ふっこう会では被災者を「東北の仲間」と呼び、これまで被災地を訪問して被災地にいる東北の仲間と交流したり、県内にいる仲間へ青森での生活を楽しんでもらうため、ハロウィンパーティや復興支援チャリティコンサート等のイベントを開催して招待したりした。同時に、県内の仲間の収入向上や雇用創出を目指し、県内の企業の協力を得て、工場内の一部の仕事を内職としてもらい、仲間へ回す仕組みを運営してきた。東北ふっこう（復興と福幸）への関心さえあれば、誰でもふっこうに貢献できる。今後も学生なりの視点・資源で東北ふっこうの活動を継続していく。
(ACGUふっこう会 ゲン・チェ・ギア)



障がい児キッズサポート「PlayBounds cercle～セルクル～」

サークル名のcercle=セルクルはフランス語で「円」、PlayBounds=プレイバウンズは「遊びを通しての絆」という意味で、障害児とその保護者と手を取り合いながら交流を深めたい、という思いを込めて名付けた。9月、伊藤先生の引率の下、現幹部の数人で仙台の活動に参加、10月、正式に承認された。幼児保育学科と専攻科が主要メンバーとなってからは活動報告会や知識を蓄える為の勉強会も開いた。12月には本学の体育館で、青森県障害者スポーツ協会の主催の下、青森県障害者スポーツ体験教室を他サークルと協力して運営した。当面の目標は、私達の主催で運動遊び教室を開くことだ。今後、多くの人に知ってもらえるように精力的に活動し、情報を発信していきたい。
(幼児保育学科2年 鈴木 凌)



障がい者(児)サッカーサポートサークル(SSSサークル)

地域における障がい児・者の余暇の充実を目指して、青森中央短期大学のOBが中心となって設立したNPO法人レアリスルスポーツクラブと連携し、障がい児・者サッカーの活動をサポートしている。青森市を中心にスタートした活動は、今では八戸市やむつ市にも年に数回訪問し活動を行っている。

活動対象は知的障がいや発達障がいのある幼児から成人まで幅広く、活動を通して参加者の「嬉しい」や「楽しい」という感情を引き出し、その感情と一緒に共有しながら活動をサポートしている。
(幼児保育学科1年 倉内 実来)



青森中央学院大学

キャリア支援センターより

e-コマース実践(キャリアアップ・ワークショップ)

2009年度に任意プログラムとして開始したe-コマース実践も4回目。青森県総合販売戦略課、カメラシエンタープライズ社などの協力、そして青森県の温かい企業の支援により今年度も実施した。2~3人で編成される16チームがそれぞれの強い思いでイチオシ商品を選び、サイトで提案することで実売に結びつけている。

イチオシ商品を選び、企業の責任者にアポをとり企画提案と販売交渉を行う。この過程で身につけた行動力とコミュニケーション力は、今後の学生生活に大いにプラスになるものと信じる。



インターンシップ体験発表会

10月26日にインターンシップ体験報告会を実施。9人の学生の発表、そして受け入れ先の企業の方からの講評をいただいた。熱心な発表や講評が続き、

もう少し時間が欲しいほどに充実していた。

インターンシップに参加し、やりっぱなしにせず気づきをまとめて仲間の前で発表する。一連のプロセスを経ることで自分の中に自信が生まれ、同時に仲間に対し良い刺激になっている。



トライアウト

企業の方とやり取りをしながら、自分で調べ考えて商品の収益改善策を提案する。単独あるいはペア参加であるが故に、高まった当事者意識をもって企業の方と接点を持ち、納得力のある提案にたどり着く。

ここまでで十分な成果が期待されるが、さらに指導する教員と外部協力者の熱心さ、凝った発表演出、発表後の熱い打ち上げが加わる。学生、企業の方、外部協力者、教職員が一体になり、お互いに自分の壁を打ち破り新しい一歩を踏み出すわけだ。

(キャリア支援委員長 塩谷 未知)

地域マネジメント研究所

青森ツーリズム創発塾:セルジオ越後氏講演会の実施

9月26日と11月18日、「あおもりツーリズム創発塾」を開催した。県内の観光人材を養成していく3回連続の講座で、7月にスポーツツーリズムをテーマとしてスタートし、9月にはサッカー解説者のセルジオ越後氏による講演を実施した。サッカーが盛んな十和田市での開催に、サッカーファンを中心に約200名が聴講した。氏は日光アイスバックスや海外の事例などを話題として取り上げ、スポーツは生活の一部であり、その人の状況に応じて多様なスポーツとの関わり方があると述べた。

講演後、セルジオ氏を交えた地元関係者との懇談会が設けられ、十和田市にスポーツコミッションを設けていくことが話し合われた。



日本女子バスケット監督、北原憲彦氏本学にて講演

11月、本学にて江戸川大学教授で前全日本女子バスケットボール監督であった北原憲彦氏の講演を实

施。北原氏は現在同大学バスケットボール部の監督であり、大学バスケットボール界で活躍されている。講演テーマはスポーツを活かした地域の人材養成で、氏の体験を交えた様々な話題やスポーツ生理学からの楽しいミニ知識も紹介して頂いた。スポーツの技術的な成長度は10歳頃がピークで、その後低化してゆき、中学や高校では筋力を養って競技能力を高めていくのが常道であるという。スポーツ能力を開花させるためには、幼少期に的確な指導を受けて、当該スポーツに関する技術力を集中的に鍛えることが重要であるという。オリンピック選手を育てるには子供時代の指導体制を整備することが非常に大切ということになる。企業の地域貢献や多くの企業が協力しながら地域スポーツを支援していく仕組みづくりなどについて語られ、大学もその一端を担っていくことが期待される。

(大学院地域マネジメント
研究科長 内山 清)



平成24年度前期学位記授与式

9月5日、平成24年度前学期の青森中央学院大学の学位記授与式が挙行された。

今年度から学長を務められる花田新学長より、1人ひとりに学位記が授与された。簡略化された中ではあるが、学長による希望を与える式辞に引き続いて、留学生による歓送りロさん(李露・3年中国)及び卒業生シンイーさん(YONG SIN YEE・マレーシア)の言葉が、このために来日された御父母(7名・タイ)の臨席される場で、発せられた。

式終了後には例年通り祝賀の会が催され、石田理事長の挨拶では、「今年は本当に心配しました」との入学前からいろいろと面倒を見られている親心が吐露され、その後トーサクさん(LIMPONG TORSACK・タイ)の司会により、卒業生各人が学園生活の思い出と今後の抱負について、流暢な日本語で語っていた。会場には、その他教職員在校生合わせて50名が駆けつけて、一緒に卒業を祝った。

(学務委員長 小俣 勝治)



同窓会総会・懇親会

11月17日、青森国際ホテルにて青森中央学院大学同窓会総会ならびに懇親会が開催された。総会に先立ち、第2期生で同総会副会長の工藤慎也さんが「本日まで参加の新入会員の皆さんは第11期生と聞いて、我々が卒業してから10年もの歳月が流れていることにさまざまな思いがある。来年は母校が開学して15年目の年と伺い、同窓会と大学が協力し、講演会等のイベントで母校を一層盛り上げていきたいと考えているので、みなさん一緒によろしく」と出席の卒業生に呼びかけた。総会では平成23年度事業報告が承認され、平成24年度事業については、サークル活動支援助成金の授与が承認されたほか、大学との共催事業開催に向けて準備を進めていくことが承認された。

続く懇親会では卒業生、教員ら懐かしい顔ぶれに近況を報告し合う姿や、先輩たちと交流する新入会員の姿が見られた。また、学生のさまざまな活動を紹介したり、2年生がキャリアプランニングで取り組んだeコマースの商品が当たる抽選会では、青森の名産品が当たり、大いに盛り上がった。最後に来年度の同窓会でまた再会できることを願いつつ、盛況のうちに閉会した。

国際交流センターより

海外留学プログラム実施

本学の海外留学プログラムを利用し、今年は米国・ペノブスコット語学学校への夏期短期留学に1名、ベトナム・貿易大学への交換留学に2名が参加した。米国ではホームステイしながらアットホームな環境で英語を学び、様々なアウトドア活動も体験した。貿易大学では現地学生や世界各国からの留学生とともに国際関係論などを受講したり、様々な国籍の友人や日系企業の人と交流したり、学外での活動からも刺激を受け、充実した留学生活を送ったようである。

スピーチコンテスト出場

11月11日、青森市国際交流ボランティア協会(AIVA)主催の第17回外国人日本語スピーチコンテストが開催され、留学生4名が出場した。

全8名の出場者の中で、経営法学部4年のホアン・トゥ・トゥイさんが、「日本や自国の学校や家庭における教育事情について」という演題でスピーチ



し、見事金賞と会場審査員賞をダブル受賞した。なお、結果は次のとおり。

金賞(第1位)・会場審査員賞:

ホアン・トゥ・トゥイ(ベトナム 経営法学部4年)

銅賞(第3位):ソー イー フェイ

(マレーシア 経営法学部2年)

優良賞・けっぱったで賞:ハウ トウエン

(中国 経営法学部3年)

優良賞・いがったで賞:シャウ ホイ チェン

(マレーシア 経営法学部2年)

FSAクリスマスパーティー開催

12月14日、FSA(Foreign Student Association)主催のクリスマスパーティーが、留学生、日本人学生、教職員、市内高校生、地域の皆様など、多数の参加をいただき、学術交流会館2階921大講義室開催された。

留学生のパフォーマンス、サークル・パフォーマンス、学友会によるビンゴ大会などで大いに盛り上がったパーティーとなった。



サークル・ライフ Vol.5

放送部

部長の長谷川瑠さんに話を聞いた。

平成24年11月にできた、新しい部である。



現在、女子6人男子1人の計7人で活動している。声を使って表現する活動をしたい、また、学内の行事にも司会等で積極的に参加していけると思い、立ち上げられた。

活動場所は1号館116教室(LL教室)である。今までの活動としては、12月に行われた来年度の新生対象ガイダンスで司会を務めた。また、部員の中には、放送部が立ち上がる前に、文化祭で行われた留学生による日本語スピーチコンテストの司会も務めた者もいる。これからの目標はNHK全国大学放送コンテストへの出場である。また、学内の各行事の司会、放送機材を用いての音声、映像作品作り等にも挑戦していきたい。

放送部は毎週金曜日5コマ目(16時10分~17時40分)に活動している。興味のある方は是非立ち寄ってみてほしい。(学生記者 久保 咲絵・相馬 伽奈子)

私の1冊

竹中 司郎先生

『学力を問い直す：学びのカリキュラムへ』

佐藤 学著(岩波書店,2001)

大学に質の向上が叫ばれている中、学習指導要領が小学校では2011年度から、中学校では2012年度から全面的に施行され、高等学校は2013年1年生から、各適用される。従前のゆとり教育から脱ゆとり教育への転換が図られることになった。筆者は、当時、ゆとり教育を批判し、子どもの学びからの逃走による学力の低下よりも、一般市民である大人の教養解体を深刻に訴えていた。その責任が何よりも大学人にあるという。日本社会の現実深く根を下ろした教養を大学人の責任において蘇えらせる必要性にもメスを入れている。この本は、これまでの日本が歩んできた学校教育を分析し、諸外国の主な教育制度を比較しつつ具体的な提案をし、これが政策的に脱ゆとり教育の社会的論拠ともなり、新学習指導要領のかいての理念に、大きな影響を与えた。著者は、東大教育学部長を務めた方である。難解な言葉を使わずに、学生にとっても読みやすく、論文の書き方にも役立つのではないか。

ゼミ探訪

Vol.24

金 美和ゼミ

現在、日本人7名、留学生3名の計10名で活動している。活動内容としては、主に国際私法について取り扱っている。国際結婚や国際取引など、より身近で、分かり易いものなどから取り組んでいる。前期は先生が講義をし、それに対して質疑応答をするという形式で、主に基礎を学んでいる。後期は、事例などを用いて各自課題に取り組み、ゼミの中で研究発表をするという形式となっている。また、希望に応じて、課外活動なども行っており、今年は県立美術館の奈良美智展へ行き、芸術鑑賞を行った。

自分の意見を、しっかりとと言えるようになることを目標としており、各自真剣に取り組んでいる。また、やるときはやる、楽しむときは楽しむという、メリハリのある雰囲気で行っている。国際私法分野を取り扱っていることから、国際的な感覚や判断力、また客観的に広い視野で物事を見ることが出来る力などが身に付くことが期待される。(学生記者 相馬 伽奈子)

OB 通信



拝啓 青森中央学院大学様

こんにちは。私はマレーシア出身で、2012年3月に卒業した後、現在はエイベックス・グループホールディングス株式会社で、主に契約関係の仕事をしています。青森で頑張っている皆さんはアジア各地の留学生と色々な文化を交流し、充実した生活を過ごしていますでしょうか？私にとってもそうでしたが、青森ならではの自然と触れ合える体験は素晴らしい思い出になります。色々な活動に積極的に参加し、自分の視野を広げていきましょう！

そして、これから就職活動を控えている皆さん、自分が興味のある業界・企業の資料を集め、そして自己PRで自分の特技(性格や特長)を常に考えて、何も怖がらずにどんどん挑戦してください。自分の目標に達するために、自分がどのように頑張らなければならないかを考動(考え、行動する)することがとても大切です。悔いのないよう、いつも精一杯遊んで、頑張ってください！

There is nothing impossible as long as you dare to dream and work hard for it! All the best to your future undertakings!

敬具

経営法学部11期生 FOONG MEI LING

突撃! 教えて! 先生 **その4** 花田勝美学長に聞く

一学生時代面白かったエピソードは何ですか。

試験が苦手な医学生で、特に苦手な教科が解剖学でした。解剖学の教授は大根が大好きで大根の話ばかりしていて、話を聞いているうちに私も大根を好きになっていました。大根を好きになったことで教授のことも好きになり、解剖学も好きになりました。

一今の夢は何ですか。

ひとつは、経営法学部を充実させることです。世界中にみなさんを送り出したいです。もうひとつは、青森中央短期大学の看護学科を青森中央学院大学へ移動させて、四年制にできたらいいなと思っています。

一趣味はなんですか。

愛犬ルナちゃんと散歩をすることです。もう一つは家庭菜園です。小さな畑できゅうり、トマト、唐辛子、大根を育てています。二つとも自分の健康の為にやっています。

一学長就任の話が来たとき思ったことはなんですか。

皮膚科医になろうと決めたときに話に来て、子供の頃の学校の先生になりたいという気持ちが思い出され、今度こそは夢だった教師になれると思いいこにきました。今とても楽しいです!!

一大学のおすすめスポットを教えてください。

一番は学長室です。晴れた日には八甲田や岩木

山の山並みが綺麗に見えます。二番はポプラ並木です。そこから見た夕焼けは最高です。見たい人は学長室にぜひ遊びに来て下さい。

一学生の好きなどころ

素直で明るいところですよ。話していて楽しいです。そして素晴らしい挨拶をしてくれるところですよ。

一言メッセージをお願いします。

良い友達を持てば幸せは二倍になり、悲しみは二分の一になります。上、下の友達や留学生とも友達になってほしいです。もう一つは、ひとつの本を持って旅へ出てほしいです。本の良さにも気づくことができます。そして、海外へ出て外から日本を見直してほしい。どれだけいい国かわかります。

(学生記者: 久保 咲絵・豊島 絵里菜 写真撮影: 須藤 友英)



~若者歩き~

Vol.4

今回紹介するのは、A-FACTORY内にあるグリル番紅花の八甲田牛のバラ焼き定食である。2010年、2011年のB-1グランプリで8位、2012年のB-1グランプリ10位と全国的な知名度抜群である。牛肉は店頭ではめったに見ることができない八甲田牛を使用しているため、味は保証できる。また、タレは自家製のものを使用しているため、他店とは違う味を出すことができる。八甲田牛のバラ焼きを注文する時は、カウンター席のみでの提供となる。理由としては注文してから自分で調理するためである。自分で調理できないという人もいるだろう。しかし、安心してほしい。自分で調理できるようにカウンター席には、調理手順が置いてある。バラ焼きが運ばれて来た時に量が多くてビックリするかもしれない。しかし調理をするうちにたまねぎがしんなりしてくるため、ちょうどいい量になる。青森駅の近くにあるので、近くに来た時は、ぜひ寄ってみてほしい。(学生記者 新山 雅貴)

グリル番紅花

住所: 青森市柳町一丁目4-2

TEL: 017-753-4600

営業時間:

平日・土日 11:00~20:00

年末年始 11:00~18:00

定休日: 無し



♪トレンドキャッチャー♪

Lv.4

今回は温泉についてです。春休みに友だちとどこかへ遊びに行く計画のある人が多いことと思います。そこで、春休みと言えど青森はまだまだ寒いので温泉に行き、身体を温めながら友達と楽しい時間を過ごしましょう。以下は、当記者がオススメの場所です。

①星野リゾート 青森屋(旧古牧温泉)

青森県では最も有名ではないでしょうか。三沢市にある温泉で、露天風呂は絶景で、素晴らしい居心地で心も身体も温まります。

②不老ふ死温泉

深浦町にある温泉で、水平線を望みながら温泉に浸かることができ、温かさが心のひだまでしっかりと染み入ります。

③青森まちなかおんせん

こちらの温泉はみなさんご存知だと思いますが、古川にある温泉ですね。どこかへ行くついでに、ふらりと気軽に行けるのでぜひ行ってください。

他にも、青森にはたくさんの温泉があるのでみなさん、春休みを温かく、かつ楽しく過ごし、有意義なものにできたら良いですね。

(学生記者 齋藤 景一)

青森中央短期大学

学びの日々

食物栄養学科

11月28日・29日の二日にわたり、特別研究発表会が開催され、33題の研究結果が発表された。食の歴史的な研究から食事療法に関する研究など、テーマも多岐に渡り、内容の濃い発表会になった。特に今年の発表会では、聴衆に伝わるプレゼンテーションをめざしており、学生たちは何度も練習を積んで発表会に臨んだ。その成果も出て、非常にわかりやすい、堂々とした発表が多かった。聴衆からも多くの質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われた。学生たちは、個々の質問に対して丁寧な対応を心がけていた。青森中央学院大学の花田学長も発表会にお見えになり、医学的な観点から助言して下さいました。学生たちにとっては、更なる探究への励みにつながるアドバイスとなった。



看護学科

10月24日～26日にかけて、看護研究Ⅱ発表会（ポスター発表および口頭発表）を実施した。発表演題は70題（7領域）であり、臨床実習で受け持ちをさせていただいた患者への看護援助を振り返る事例研究、興味・関心をいただいた事象に対する文献研究が主であった。約半年間を費やした研究成果は1階ホールに3日間掲示され、後輩の看護研究の実施に向けての動機づけとなることができた。また、各領域から推薦された研究7題が口頭で発表され、各専門領域の特殊性や患者の個別性を考慮した看護援助の必要性について考察されていた。

卒業後も、個々の看護観を磨くと同時に、継続して研究し、根拠のあるケアを患者に提供していくことを期待する。



幼児保育学科

青森中央短期大学幼児保育学科42期生の卒業記念公演が12月15日、青森市アウガ5階A V多機能ホールにて行われた。上演されたミュージカルは、イタリア児童文学の傑作「ピノキオ」を題材にしたもので、「絆～守りつづけた大切な宝物」という学生達のメッセージを伝える作品にリメイクされ、卒業生全員の強い絆と熱い想いが込められた素敵な作品となった。「愛されること」で人間の温かい心を獲得したピノキオと同様に、学生たちもまた、短大生活の2年間でたくさんのお会い、別れ、そして愛されることを経験し社会へと巣立っていく力を蓄えているという事を感じ、教員はもちろん、会場全体でその喜びを共感することができた誇らしいひとときであった。



専攻科福祉科専攻

修了論文発表会を12月8日に実施した。生活は人が生きている限り、その命を維持し、育むために行っている必要不可欠な活動のことである。何気なく過ごす日常が生活そのものであり、身体的、認知能力が不自由になると自分の想う生活ができなくなる。加齢は不可避であるが予防は可能である。誰もが活き活きとした生活を送るために介護福祉士として何を求められているかの研究内容であった。介護は人と関わる職業である為、検証のために倫理申請をして、3件中1件が受理され、申請の難しさに涙した学生もいた。1年課程の中で実習をしながら8か月で論文を書く事は、研究目的を明確にしなければできず、努力して学ぶ姿勢があったからこそ可能となっている。今までない着眼点を持つ内容の物もあり今後ライフワークとして続けていけば更なる向上に繋がるとは必ずである。



社会とのつながり

陸上自衛隊第9音楽隊コンサート

12月22日、青森市民ホールにて本学主催公開講座事業の一環としてコンサートが行われた。今年度は外部施設での大規模なコンサートという事もあり、700人あまりの地域の方々が足を運んで下さった。プログラムの第2部では、本学アンサンブルサークルの学生たち10名がプロの音楽隊に加わって演奏し、クリスマスメドレーなどの親しみやすい曲に、会場全体が聴き入っていた。

これからも、このような「心が動くあたたかい瞬間」を響感できる場を目指していきたいと考えた貴重なひとときであった。（地域社会活動委員長 前田 美樹）



産学官協同「まるごと青森弁当」のその後

食物栄養学科学生が考案した「まるごと青森弁当」が、県内のイトーヨーカ堂(以下ヨーカ堂)にて期間限定で販売された。売上総数は「まるごと青森弁当」2635個、「青森彩り弁当」304個の計2939個。（「青森彩り弁当」は、まるごと青森弁当の中からおかずを数種選び安価で販売したもの。）1種類の弁当としてはヨーカ堂内で全国的にみても今までにない売上とのことであった。この実績を買われ、「青森うまいもの弁当」として、ヨーカ堂全店で11/21～25日の5日間販売された。今回は大学の名称は入れないことになっていたが、県内のヨーカ堂では大学名や前回使用した学生のパネルが展示された。県内にとどまらず、全国展開できたことはとても大きな成果であり、学生たちにとっても大きな自信につながった。



まるごと青森弁当

ひとりでもできる フットバス&アロママッサージ

9月29日、昨年のアロマセラピー・ハンドマッサージに引き続き、フットマッサージの公開講座を開催しました。参加者は35名、内容は、アロマセラピー基礎知識の講義、リラクゼーションミュージックを聞きながらの足浴、そしてフットマッサージの演習でした。マッサージはリンパの流れを改善する方法を取り入れたので、施術後に足首が細くなった方もいて、驚きの声が上がっていました。皆さん満足した様子で、笑顔が多くみられました。

アロマセラピーは気軽に楽しむことができ、お年寄りやお子さんとのスキンシップ、がん患者さんの苦痛軽減にも役立つので、今後も微力ながら伝えていきたいと思っています。

（看護学科教授
村山 志津子）



食育サポーター事務局

平成24年4月、青森県から「青森県ライフステージに応じた食育活動推進業務」として委託を受け、青森中央短期大学内に食育サポーター事務局が新たに設置された。

主な業務としては食育活動及び支援、教材作成などである。地域の皆様にも当事務局の活動が徐々に周知されるようになり、現在では200件近い活動申込をいただいている。2名の食育コンシェルジュを中心に、食育サポーターのメンバーが連日県内各地の学校や地域を回り、食に関する講話や寸劇、調理実習食はもちろん、野菜作りまで様々な活動を行っている。

これからも当事務局を中心に、子どもから大人まで色々な方に、食に興味や関心を持っていただけるような食育活動を展開していきたいと考えている。

（食育コンシェルジュ
森山 洋美）



先生の自分史「心を動かす仕事を目指して」

食物栄養学科 樽澤 禎子先生



これまでに夢見てきた職業はたくさんあります。ケーキ屋さん、漫画家、ピアニスト、バレリーナ、バレーボール選手、ミュージカルのダンサー。このように書き出してみると、子どもの頃はずいぶん華やかに見える世界に憧れていたようです。実際にはヨガスタジオやスポーツクラブのインストラクターを経て、資格を取るため大学へ入り直し、現在の仕事に就いています。一見、接点のなさそうな昔の夢とこれまでの仕事ですが、そこには「人の心を動かす仕事がしたい」という共通の想いがずっとありました。ここへたどり着くまでいろいろと寄り道をしてきたため、ずいぶん遠回りな人生を送ってきたように感じます。しかし、寄り道をして得られた機会や刺激は、今の自分にとってとても大切に不可欠なものばかりです。この経験がこれからのわたしの仕事や人生の糧となると信じています。

読んで欲しいこの1冊

幼児保育学科 松浦 淳先生
『日本人のしつけは衰退したか』
広田 照幸著(講談社,1999)

子育てに関する「最近の親のしつけはなくなってない」「昔はきちんとしつけがされていたのに」という話は「本当」なのでしょう。このように巷間に流布する主張は、いつどこから、どのように私たちのものに届いているのでしょうか。

この本はそのような言説の来歴を掘り下げ、「親による子育て」に対するとらえ方の変遷、そして、わが子を大切に思うが故に苦しむ現代の親たちの姿、などを文献に基づいて示しています。

ぶらぶらとあてもなく日々を過ごしていた学生時代にこの本を読んだ僕は、見知った情報を鵜呑みにするリスクとともに、各人の「現実」とは意図的であれ無意図的であれ「作られるもの」ではないか、という世界観に触れ、「見たい夢を見続けるために生きていこう」と思いました。ステレオタイプな育児観に「？」と感じている方は、是非一読を。

研究室を訪ねて

Vol.5

～木村亜希子研究室～

42期生の特別研究は、食育に関するテーマや県産品のPRに関するテーマに取組みました。私の研究室では、それぞれテーマは違ってもお互いの研究内容に関心をもち、協力的な態度やコミュニケーションを大事にしたいと考えています。研究に手探りで取組む中で、大変で辛いと感じていた学生もいたようですが、大変だった時は自分以外の学生も頑張っている様子が励みとなって、頑張れたようでした。発表会では様々な視点があることのおもしろさに気づき、自分自身の課題に対して前向きに取り組む気持ちを持たせたようです。初めて研究を行う学生にとっては困難の連続かもしれませんが、追い込まれた時こそ成長の機会になると思います。指導しています。



卒業生も活躍しています

専攻科福祉専攻15期生 肥後 良佑さん
介護老人保健施設 ニューライフ芙蓉勤務

学生時代は、何の目標もなく流れに身を任せ、「実習に行きなさい」と言われれば行き、「提出物を出しなさい」と言われて出す。自分で考え、行動することはほとんどない私でしたが、今は介護の仕事をして10年程経ち、責任ある仕事を任せて貰えるようになりました。大変なことも沢山ありますが、利用者さんとの会話やお世話に、楽しくやりがいを感じて日々を過ごしています。

適当に過ごした恥ずかしい学生時代ではありましたが、介護の資格を持てたことで様々な人に出会い、学び、成長することができました。今は、「子どもの父親として恥ずかしくない生き方」を人生の目標とし、介護の仕事を頑張っています。



キャンパス再発見～イルミネーション～ Vol.4

今回紹介するのは、冬の時期に目を楽しませてくれるイルミネーションです。今年も12月3日に点灯されました。5号館や第一幼稚園、その周辺の木々が電飾され、見ているだけで心が温まります。普段は、誰も立ち止まることのないような通りです。しかし点灯されたことにより足を止めて眺めたり、わざわざイルミネーションを見にくる学生もいます。

冬は日暮れが早くなっているのですが、講義が終わった頃には、イルミネーションが視界に飛び込んできます。それは1日の疲れを吹き飛ばすほど、きれいで感動的です。見ているとしっとりと心が落ち着くこのイルミネーションは毎年行われています。来年の雪が降る季節に、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

(学生記者 倉内 実来)



謎に包まれる寮生の生活 Vol.4

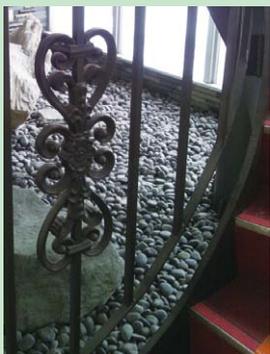
今回ご紹介するのは、女子寮こぶし会館です。

ここは入館している本人しか入ることはできません。こぶし会館は6階までありますが、1階は玄関と共同入浴場、2階には食堂と管理人室があり、3階から6階に寮生の部屋があります。

寮生の生活は次のようになっています。朝、平日は6時半、土日祝日は7時に朝の点呼が行われます。朝の7時から8時までが朝食の時間になります。お風呂は5時から10時の間に、共同入浴場で入る事になります。夜10時には点呼をし、掃除をします。ですから門限は10時です。放送は当番制で、当番になった人は点呼の時間などに放送を行います。

こぶし会館は寮費が安く、食事が付いて電気代と水道代もかからないので、テレビやパソコンをよく使う人や、節約したい人にオススメです。生活費を安く、充実した楽しい生活をしたい人はぜひ希望してみてはいかがでしょうか。

(学生記者 平井 麗奈)



1人暮らしのレシピ Vol.4

今回ご紹介するのは、豆腐ハンバーグです。普通のハンバーグよりもヘルシーでかつ高タンパクですので、少しでも多くの栄養素を補うことができます。

用意する材料は次の通りです：豚ひき肉30g、豆腐50g、玉ねぎ15g、塩コショウ、プロセスチーズ、ケチャップ。

作り方は①豚ひき肉、豆腐、玉ねぎをみじん切りしたもの、塩コショウ、細かく切ったプロセスチーズを練り混ぜます。②フライパンでしっかり火が通るまで焼きます。③ケチャップをかけて完成です。

チーズを入れることによりカルシウムを摂取できます。これはイライラするのを抑えることに効果的です。若い世代が気にするカロリーも、豆腐をいれることにより低カロリーに仕上げることができます。作り方もかなり簡単なので、すぐに作れるのではないかと思います。

(学生記者
信太 佑木子・
三浦 万季)



考シリーズ～音楽考～ Vol.4

冬のシーズンは学年末テストなど、勉強の追い込みの時期です。勉強する時、音楽を聴きながら勉強するタイプと、聴かないで勉強するタイプに分かれると思います。そこで今回は、本学の学生達が勉強するときの集中の仕方について、音楽との関係で考えてみました。

このことについて学生30名にアンケートをとった結果、音楽を聴きながら勉強するという学生は15名、音楽を聴かないで勉強するという学生は15名となりました。

前者の意見をだした学生たちの場合、『音楽を聴くことで周りから孤立でき、集中することができるから』というのが主な理由としてあげられています。また、後者の理由としては、『音楽を聴くと気が散り、細かなミスが増えるから』などがあげられました。

こうしたことから、学生たちの集中の仕方は人それぞれということがわかります。勉強がはかどるためには、自分にあった集中の仕方を見つけることが大切であると言えるのではないのでしょうか。

(学生記者 信太 佑木子・三浦 万季)

附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

認定こども園附属第一幼稚園



〈おゆうぎ会〉全園児による合唱です。大きな口をあけて楽しそうに歌う様子は可愛いですね。



〈水族館見学〉水槽の前で歓声をあげ、沢山の魚達に興奮です。



〈イルミネーション点灯式〉可愛いサンタさんに変身し、「きよしこの夜」のハンドベル

附属第二幼稚園



〈水族館見学〉メインの見せ場は、やはりイルカショーです。イルカさんたちの飼育の様子がよくみられました。



〈ハロウィン誕生会〉自作のコスチュームを身につけて「お菓子をちょうだい」とさげんであるき、お菓子をもらっているのです。みんなおぼけになったつもりです。



〈おゆうぎ会〉“つけまつける”のリズミカルな曲を踊りこなしています。年長の女の子、最後のおゆうぎ会です。

認定こども園附属第三幼稚園



〈秋の保育参観〉遠足に行ったことを思い出しながら、年中さんが「おいしそうなおべんとう」を制作しました。思わずゴクン。



〈秋のモヤヒルズ〉みんなで行った秋の遠足。コスモスもきれいだったけどやっぱり楽しいランチタイム。



〈英会話交流会〉英会話教室のみんなが附属第一幼稚園に集合。アンジェロ先生と英語で歌ったり、ゲームしたり楽しみました。お友達もできました。

中央文化保育園



〈いもほり〉大きなおいも小さなおいも、土を掘るとどんどん出てくるじゃがいもに大歓声。大収穫でした。



〈保育参観〉「それいけ!アンパンマン」をテーマにクラス別の創作活動やお店やさんごっこが展開されました。

浦町保育園



〈職場訪問〉青森の街を守ってくれる消防士さんに、お花を届けました。

先生達活躍しています 第8回

男性教諭として

認定こども園 附属第一幼稚園

佐々木 正弥先生



幼稚園教諭となって今年で5年目となりました。女の先生には幼稚園でのお母さん、男の先生にはお父さんとしての役割が求められます。私が幼少の頃通っていた幼稚園には、当時としては珍しい男性の幼稚園教諭がいました。子ども達と同じ目線に立ち、一緒に走り回ってサッカーや鬼ごっこをしたり、マジックを披露してくれたり、とても明るくて楽しい先生だったことを今でも覚えています。その時に男の先生は『父親のように大きくて、とっても楽しい人』というイメージが私の中に根付き、今では子ども達にそう思ってもらうことが私の目標です。子ども達の園生活での「楽しい！」が尽きることがないように、「楽しい！」の中の1つになれるよう、日々の保育に努めていきたいと思います。

「遊ぶということ」が私の活力

附属第二幼稚園 舘山 弥志先生



現在、5歳児のうめ組を担当しています。子ども達はとても元気が良く、体を動かすことが大好きです。プレールームに行くと、「先生、一緒に遊ぼうよ」と誘われ、ボールやフラフープなど様々な遊具を使いながら、和気あいあいと遊んでいます。

これまでにいろいろな行事を体験してきましたが、子ども達と遊んだことが私にとって一番の思い出であり、また活力になっています。遊ぶことは、心と心を結ぶツールであり、また一日をより楽しく過ごすことができるものであることを子ども達との遊びの中で教えてもらいました。遊びの後の、子ども達が楽しかったと笑顔で見せる満足そうな姿も、心の支えの一つになっています。

これからも教育方針の中にある「友だちと仲良く遊ぶ」を特に大切に、友だちと関わることの大切さ、協調性、思いやり、優しさなどを育てていきたいです。

読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園 附属第三幼稚園 新潟奈々先生『おおきなかぶ』
ロシア民話/A・トルストイ 再話/内田莉紗子 訳/佐藤忠良 画 (福音館書店、1966)

おじいさんが種をまいたかぶは、どんどん大きくなって、おじいさんが「うんとこしょ、どっこいしょ」とひっぱってもなかなか抜けません。おばあさん、まごむすめ、犬、ねこ、ねずみと手伝ってくれてやっと抜けるのですが、増えていくたびに子ども達の歓声があがり、「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声が大きくなります。時には、ねずみがひっぱってもかぶが抜けられないお話に変えて、クラスのお友達に手伝ってもらうこともあります。子どもの名前を入れて読むと、「次やってみたい!」「今日はいつ抜けるのかな」と、わくわくしながら聞いてくれるので、読み方



を変えただけで、何度も楽しめる子ども達のお気に入りの一冊になっています。

卒園児頑張っています

認定こども園 附属第三幼稚園卒園 工藤響香さん



青森高校1年の工藤響香です。私は、小さい頃から人一倍人見知りが強かったらしく、幼稚園に入った頃はいつも泣いていたと母から聞いています。年長の初めまで続いたようですが、そのうち幼稚園が楽しくなって、いつしか克服できたようです。きっと先生やたくさんの友達と楽しく遊んだおかげで、集団の中で過ごすことに慣れたのだと思っています。

現在私は、高校の女子バレーボール部に入部し、毎日の勉強と部活動に励んでいます。まだまだこれからも頑張ることはたくさんありますが、今考えると、この私が頑張っているのは、小さい頃から周囲にいろんな大人や友達がいたからだと思っています。

幼稚園での楽しかったことを含めて、小さい時の経験はその後の自分にも、将来にも繋がると思っています。皆さんも一生懸命に遊んで毎日を楽しく過ごしてください。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

Bunka Fashion Live2012 ～彩虹 TIC～



今年度のテーマは「彩虹TIC」。「再構築」をコンセプトに、「光」と「虹」が彩る未来へ向けて、学生達が願いを込めオリジナルデザイン作品約50点を制作した。

ショーでは、学生自らモデルとなり、ヘアメイクやウォーキングなど、授業を通して学んだ総合的な知識・技術を披露し、1・2年間の集大成となる衣装を発表した。

また昨年9月、中国の大連市で開催された「大連市第二回国際友好都市青少年アートフェスティバル」に於いて、青森県代表として参加した際の衣装も発表。異文化交流を深めながら披露した「かわいい」がたくさん詰まった衣装、日本文化を尊重し「きもの」を現代風にアレンジした衣装が披露された。また学園祭での発表作品も登場し、来場者から注目を浴びた。



今年度の「青森スクールガールズモデル」の参加者は、青森中央経理専門学校の学生をはじめ、小・中学生、高校生、大学生まで幅広い年齢層が参加して一緒に会場を盛り上げ、昨年度よりも更に魅せるショーに仕上がった。

一人一人が輝いて光を放ち、大きな虹となり、これから続く未来に繋がっていくことだろう。

「Bunka Fashion Live2012」裏方レポート

青森中央経理専門学校では、毎年開催されるBunka Fashion Liveを一緒に盛り上げる為に、スタッフとして参加している。リハーサルでは、照明機器操作のタイミングチェック、ファッション甲子園入賞作品展示ブースのディスプレイ等、各担当者と協力しながら行い、来場者に満足して頂けるおもてなしを心がけている。

また、ファッションライブ当日は、青森中央短期大学の学生がナレーションを担当。裏方で支える学生達のパワーを受けて青森中央文化専門学校の学生はライブに臨んだ。



卒業生講話

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では、11月9日、卒業生講話を聴講した。平成21年度・平成22年度に卒業し、現在ベテラン社員に向け一歩一歩頑張っている卒業生3名が、後輩へ向けて貴重な講話、就職活動のアドバイスを行った。



研修旅行

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では、10月31日～11月2日まで、2泊3日の日程で東京都内への研修旅行を実施した。

専門的知識や視野が広がる施設等を巡るコースでは、憧れの職場を実際に見学することができ、各自が思い出に残る時間を過ごした。



経理発信情報 Vol.7 読書サークル紹介

皆様、冬休みはいかが過ごされましたでしょうか？今回は読書サークルの活動を紹介したいと思います。

読書サークルでは、読書好きな仲間が集い、自分たちが読書をするだけでなく、今まで本に興味の無かった方でも関心を持ち、「この本はおもしろそう、是非読んでみよう。」と自分のお気に入りの一冊に出会えるようにPOP作成にも力を注いでいます。

最近作ったPOPでは、「9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方」（福島文二郎著、中経出版、2011）という本について分かりやすく説明をしています。これから社会に出る皆様には、是非一度読んで頂きたいオススメの内容です。

これからも読書サークルは、皆様に本を日常的に読んで頂けるように活動をしていきたいと思いをします。



ファッション通信 vol.6

【2013年春夏のオススメ style】

今季はファンシー柄をフェミニンに着る、「フェミニティー」を提案します。

可憐で繊細…女性が持つ感覚「フェミニン」をファンシー感覚にアレンジしてスイートな印象に。

コーディネートは春を感じるフォルムやディテール、ロマンチックな小物使いがポイントです。カラフルな太ベルトでインパクトを与えたり、足元にパステルカラーを使ったりすると遊び心のあるスタイルになります。

色は愛らしさを感じる高明度中心の配色を心がけると、明るく軽い印象を与えます。



(本文：文化編集部サークル デザイン画：渡邊 まい)

おススメ図書 vol.6

青森中央経理専門学校 佐藤 紋子先生

『1分で大切なことを伝える技術』

齋藤 孝著 (PHP 研究所, 2009)

近年、大量の情報に埋もれる中、「自分が必要な情報、不要な情報」を選別しながら、私たちは生活しています。テレビ、ラジオ、雑誌、メール、インターネット等、コミュニケーションツールはたくさんありますが、一番難しく、でも効果的に相手に伝える強力な手段は、「Face To Face」で接するコミュニケーションであると私は感じます。この図書は、不要な情報は即座に切り捨てられる多忙な現代社会で、自分をアピールできるのは1分程度と想定し、1分の密度を濃くする技術がぎっしり記述されています。私は、約15秒間のCMから心を動かされて行動することがあるので、「CMは教材になる」という内容を読み、CMを「伝える技術」という観点からコミュニケーション力のアップに繋がりたいと感じました。

皆さんはどんな技術を使い、たった1分で大切なことを伝えますか？

卒業生ピックアップ No.19

青森中央文化専門学校 平成21年度卒業

株式会社ユニクロ 販売員 工藤 安紀子さん

小さい頃から裁縫が好きで、この学校ではファッションのことを総合的に学べると思い、青森中央文化専門学校に入学しました。

ファッション販売や服の素材、色の合わせ方など自分の好きなファッションについて楽しく学びました。その甲斐もあり、職場ではマネキンの着せ付けを担当し、お客様にトレンドを押さえたコーディネート提案しています。

コーディネートアドバイスでお客様に笑顔になって帰って頂けると、とても嬉しく思います。

今の職場では、ミシンでの縫製をはじめ学校で学んだことを最大限活かして、とても楽しく働いています。

これからも多くのお客様と接し、多くの販売スキルを身に付け、日々たくさんの事を吸収し、成長していきたいと思いをします。



学園共通

FRIENDLY WINDOW より

こぎん刺し講座

青森中央文化専門学校はサテライトキャンパスFRIENDLY WINDOWに於いて、青森中央短期大学第1期生 木野洋子先生を迎え、津軽伝統のこぎん刺し講座を開催した。

今年4月に同会場にて開催した作品展が好評を博し、開催する運びとなった本講座は、10月から12月まで月1回開講であったが各回定員満了で、「気軽に地元のこぎん刺しに触れるよい機会となった」と好評をいただいた。

津軽伝統のこぎん刺しの基礎から応用まで学ぶ本講座は、カードケース、コースター、ミニテーブルセンター、サブバッグなど、各作品全4色から選ぶ形式をとり、若い方でも気軽に始められ、より多くの方に楽しんでいただけるよう企画した。また、はじめての方も安心して受講いただけるよう、こぎん特有の糸ではなく、刺しゅう糸を使用した。

青森中央文化専門学校では今後も、学外に於いて地域の方々にも気軽に参加していただけるような講座を開催していく予定である。



青い森の健康食堂

「e コマース実践」では、インターネット上で販売をするため、お客様が実際に手に取れない商品を販売する



難しさをずっと痛感していた。そこで、学生が選んだイチオシ県産品を組み合わせランチ提供する、「青い森の健康食堂」をフレンドリーウインドウで開催した。いらっしゃったお客様の多くは、健康志向の女性。県産の野菜を使うことにこだわり、油をほぼ使っていないヘルシーなランチに大変喜んでいました。そして、ネット販売している商品を展示し、イチオシ県産品をさらに広めるきっかけとなった。

悪天候の中、切り抜いた新聞記事を手に握りしめて来られたお客様の姿に、スタッフ一同感激した。また、お客様からはこの取組みについての応援メッセージをいただき、感謝するとともに学生らの意欲へと繋がった。

地域の方々と県産品を通じて交流することができ、せんべい汁で体と心まであたたまった10日間であった。（キャリア支援センター 橘美知子）

ライフステージに応じた食育講座

サテライトキャンパスFRIENDLY WINDOWでは、毎月1回あおもり食育サポーター事務局と協力して、「ライフステージに応じた食育講座」を開催している。

子どもや若い世代の食生活改善や働き盛りの生活習慣病の予防、そして高齢者の個食や低栄養の改善等、それぞれのライフステージに応じて「高齢者の食事」「青森県の道の駅」「子どもクッキング」「脱メタボ」「運動と栄養」「食中毒について」等毎月テーマを決め、市民ボランティアのあおもり食育サポーターや、青森中央短期大学食物栄養学科の教員による多様な講座を開催している。

開催日程も、テーマに合わせて子ども向けの夏休み中の講座や、大人向けの夜間の講座等参加者に合わせて工夫している。

今後も継続的に様々なテーマでの講座を企画しているのので、ぜひ多くの人に参加してほしい。



後期開催行事案内

青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOW

オープン時間 10:00~18:00 開館日 月・火・木・金・土(祝日を除く)

●青森中央文化専門学校公開講座

日程	内容	対象
2月18日(月) 13:00~15:00	和紙で作るミニミニお雛様②	一般
3月18日(月) 13:00~15:00	ワンポイントソーイング	一般

●ライフステージに応じた食育講座

時間:13:30~15:00 対象:一般

日程	内容	講師
2月12日(火)	体内に時計が? 時間栄養学のススメ	青森中央短期大学准教授 棟方 秀和 氏

●若者のための新町通り(要事前申込)

時間:18:30~20:00 対象:10~40代の社会人・学生

日程	内容
2月28日(木)	雪割草読書会 第5回目 課題図書 山竹伸二 「認められたい」の正体~承認不安の時代(講談社現代新書)
3月28日(木)	てつがくカフェ@青い森 第5回目 テーマ:人類は進歩しているのか?

青森中央短期大学

●福祉を知ってみませんか

会場:リンクステーションホール青森(青森市文化会館)大会議室

日程	内容	講師
2月24日(日) 13:30~15:00	生き生き介護~誰でもできるらくらく介護術~	RX組 楽技介護塾 紫野庵 青山 幸広 氏

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

●オープンキャンパス

日程	内容	対象
3月14日(木) 13:00~16:00	学校・要項説明、体験授業など	高校生・保護者

●青森県職業体験フェア

会場:ねぶたの家ワ・ラッセ

日程	内容	主催
3月26日(火) 13:30~17:00	仕事体験・職業適性診断・相談コーナー等	青森県専修学校各種学校連合会

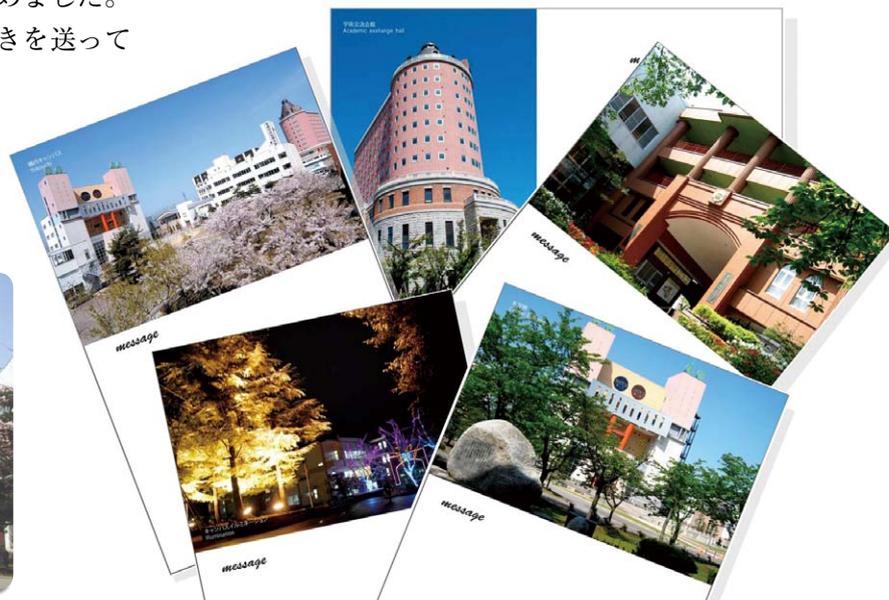
ポストカード販売中

学園の特徴的な校舎を絵はがきに収めました。
懐かしい校舎の写真と共に、絵はがきを送ってみてはいかがでしょうか?
学内購買にて販売中!

■販売価格:200円



ポストカードケース



絵柄は全部で5種類

ポストカードケースに入れて、そのまま郵送することもできます。

※郵送の際には規程の金額の切手を貼付し、閉じ口を固定してください。



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、5月発行予定の87号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■87号応募締め切り：3月23日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第86号

発行日：2013. 2.15

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

北原かな子 佐藤 紋子

坪谷 輝子 赤坂 敦子

八木橋ひろみ 高橋 晴美

中田 尋美

学生記者

久保 咲絵 相馬伽奈子 新山 雅貴

齋藤 景一 須藤 友英 豊島絵里菜

倉内 実来 平井 麗奈 信太佑木子

三浦 万季